ふじ研究所

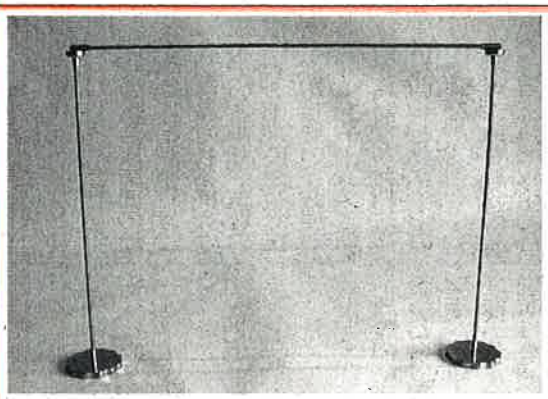
製品開発と販促両輪で

おしゃれな包装など試み

ふじ研究所（本社・札幌）は、ものづくりの幅を広げるとともに製品化後の販売手法にも工夫を凝らしている。新製品として、キッチン回りで使う布巾やゴム手袋を干したり、使用済みのペットボトルの水切りなどに用いる多機能物干しグッズを開発。複数のネットショップで販売しているが、昨年市場投入した簡易薫製機は、ギフト用におしゃれな包装パッケージにデザインするなどの試みを行っている。

佐橋光好社長は、本業の空調衛生設備以外にもアウトドアや庭先での会食に活用できる折り畳み式薫製器を考案したり、海外製ペレットストーブを国内向けに改良するなどのものづくりやリフォーム事業を展開してきた。

今回、愛好家向けの製品ではなく、主婦層や日常生活での利用をターゲットとした「べんりタワ～」を開発した。佐橋社長は「台所やリビングなどで気軽に利用できる」と幅広い需要を期待する。



簡単に組み立て・分離ができる「べんりタワ～」

製品はステンレス製のポール（長さ270×径4ミリ）と、棒を立てるための台座（直径53ミリ、厚み6ミリ、穴は4ミリ）から成る。「至ってシンプル製品だが、キッチンの雰囲気を損ねないように意匠性にも気を配った」とスタイリッシュなデザインに仕上げた。

柱を台座の穴に挿入して立ち上げると、そのまま使用済みの牛乳パックやペットボトルを逆さにして置いて水切りできる。支柱と台座のキットを複数組み合わせ、上部に棒を接続するとぬれた布巾やゴム手袋などを乾かす物干しになる。各パーツは、支柱上部の磁石で固定するため、工具を用いなくても簡単に組み立てや分離・収納ができる。

当初は各部材をねじ込み式でつなぐことを考えたが、コスト面を考慮して磁石式とし、仕様やサイズを最適化した。価格は台座、支柱、磁石各1個の1セットで1800円（税抜き）。台座は円形、星型、ギア型の3デザインをそろえた。

一般的に発明家は、ものづくりは得意だが、製品後の販売に苦心することが多いという。同社は、自社で運営するネットショップのほか、楽天とヤフーにも登録して全国で製品を販売する。

折り畳み式薫製機については、新たな普及法を思案。包装を外注で特別仕様とし、高級感のある黒色に箱詰めしてパッケージ化し、ギフト用として提案している。

20、21の両日、滝野すずらん丘陵公園で開かれた第7回北海道キャンピングフェアにも出展。アウトドア愛好家にアピールした。佐橋社長は「各製品を7月に札幌市内で開かれる北洋銀行のものづくりフェアにも展示する」とし、さまざまな場所でのPRを考えている。

竹中工務店

東関東支店のZEB化改修で「プラスエネ」を達成

竹中工務店は、ネット・ゼロ・エネルギービルディング（ZEB）化改修した東関東支店の1年間のエネルギー収支について、創エネルギー量が1次エネルギー消費量を上回る「プラスエネルギー」を達成した。外装の高断熱化や自然エネルギーの活用、ワークスタイルの変革などにより、2016年5月の本格運用以来、年間エネルギー消費量は改修前と比べ約7割削減。実際に使用して一昨年度削減できる。

こうした効果により、年間エネルギー消費量は、空調・換気、照明、コンセントを含め建物全体で1平方メートル当たり403メガジュールとなり、改修前の同1400メガジュールから大幅に削減。太陽光発電による創エネルギー量は同417メガジュールでエネルギー消費量を上回った。

ZEB化改修で、ウェアラブル端末を使った社員の活動量計測や体感申告から個人の好みを学習し、最適な温度や気流を提供する「ウェルネス制御」を実現し、省エネと快適性を両立させた。エネルギーの最小化により、災害時にインフラが太陽熱を直接利用する放射空調により、快適性を維持しつつ空調エネルギーを大きく削減した。

高齢化や人口減に対応

東急不動産HDとホンダ

スマートコミュニティー実験

東急不動産ホールディングスとホンダは今夏から、既存の郊外型住宅団地で高齢化社会対応型スマートコミュニティーの実証実験を始める。

高度成長期以降に開発・分譲された郊外型住宅団地で進む少子高齢化によって、人口減少や空き家といったさまざまな社会課題の解決が求められる中、両社が住民コミュニティーと連携し、高齢化社会対応型のスマートコミュニティーへの実現を目指す。

実証実験は、東急不動産が手掛けた千葉県の郊外型住宅団地「季美の森（きみのもり）」で行う。期間はことしから3年間の予定。第1段階として、両社の実績と知見を生かし、高齢者や主婦らを対象に次世代移動支援に取り組む。ホンダの次世代電動パーソナルモビリティーによる団地内走行やカーシェアリングを実施し、その有効性や利便性を検証する。

併せて、ホンダのエネルギーマネジメント技術を駆使した、持続可能なコミュニティーづくりや、ロボティクス技術「Honda歩行アシスト」を活用した住民の生活・健康支援も順次行う。

実験推進のため、住民コミュニティーとの共同実証実験拠点を開設する予定で、各テーマについて住民コミュニティーや大学、研究機関、民間企業、自治体などを含んだ地域社会と連携し、オープンイノベーションによる課題研究や実証実験を進める。

将来的には、実証実験

LIXIL

意匠と安心性能を両立

中低層用カーテンウォール